

当院における生理機能検査システムの再構築

○小林 華衣,澤田 裕也,丹羽 加奈子,高田 智子,静 怜子,町田 哲男,角野 博之
村上 正巳(国立大学法人 群馬大学医学部附属病院)

【はじめに】

群馬大学医学部附属病院検査部生理機能検査部門では、2013年4月に加算平均心電図（以下 LP）・血圧脈波（以下 CAVI）システム（フクダ電子製、以下 EFS-8800）の導入および心電図検査システム（日本光電製、以下 Prime Vita）の更新をし、生理機能検査システムを再構築したので報告する。

【当院での以前のシステム】

病院情報システム（HIS）は ACOS（NEC 製）、電子カルテシステムに MegaOak を使用し、各部門システムと接続して病院全体での医療業務総合電算化システムを構築している。生理機能検査部門は Web サーバーを介して HIS と連携し、効率的なシステムの運用を図っている。心電図・超音波・呼吸機能検査は HIS と連携し、電子カルテで参照可能であった。しかし、LP・CAVI・脳波・誘発電位・神経伝導速度・尿素呼気試験検査は HIS と接続されていないため、結果を紙出力したものをスキャナー取り込みをして電子カルテ上で参照できるようにしていた。

【システムの再構築後】

今回、EFS-8800 の導入により LP および CAVI 検査で出力されたデータは電子カルテより参照可能となった。さらに Prime Vita を更新し、18 誘導心電図波形の参照が可能となった。

【まとめ】

LP や CAVI 検査をオンライン化することにより患者情報の手入力が不要となり、入力間違いや誤認証が防止可能となった。さらに、電子カルテ上でデータ管理が可能となり、結果処理に要する時間が短縮されたため、検査技師の作業時間が短縮され、業務の効率化が図られた。さらに、Prime Vita の更新により 12 誘導心電図の波形を演算処理し 18 誘導が導出可能となった。これにより以前と変わらぬ手技で、より多くの情報を得ることが可能となり、今後臨床や研究において、大いに活用されることが期待される。

027-220-8564